
フレデリック・クリスチャン・ルイス 『ミュージアム・クロード』研究ノート

金井 真悠子

1. はじめに－クロード・ロランとイギリス

17世紀後半に始まったグランドツアーによって、イタリアの文化、芸術を自国に持ち帰ることに情熱を傾けていたイギリスの貴族階級たちに人気を博し、瞬く間にイギリス人を魅了したフランス人画家、クロード・ロラン (Claude Lorrain, 1600–82)。ロランは生涯のほとんどをローマで過ごし、イタリアの風景を牧歌的に描いた風景画で知られ、彼がイギリスの風景画に及ぼした影響は計り知れない。その死後にも衰えるどころか更に加熱したロランの人気は、17世紀末から19世紀にかけてイギリスへもたらされたロランの絵画およびドローイングのコレクションの充実ぶりから窺い知ることができる。フランスやイタリアではなく、イギリスで最も優れたロランの名作の数々を現在我々が楽しめるのは、18、19世紀に貴族階級がまとまったロラン・コレクションを形成してきたからだ^[1]。

しかし、かなり早い段階で美術館が無料で民衆に開かれていたロンドンにおいてさえも、名画を一般市民が鑑賞する機会は限られていた。貴族や資産家などが個人の楽しみで購入し、邸宅に飾って楽しむ作品については、観る機会などは皆無であった。そこで、個人や国家のコレクションをより多くの人々に広く知らしめるために、また、作家本人が自作のイメージを広く普及させるために、絵画作品の複製 (reproduction) としての版画の需要が高まった。複製といっても現在我々がコピー機で複写するのは異なる。19世紀までの複製技術においては、色鮮やかな原画をモノクロームのメディアに忠実に変換し、更に版画ならではの線と面による芸術的な表現を実現するため、版刻師 (engraver) および摺り師の高い技術が求められた^[2]。版刻師たちは、貴族や王族のコレクションを版画化する仕事を受注するだけでなく、芸術家や出版社と協働して人気の高い画家たちの作品を版画化することで、自身の高い技術を広くアピールすることにも挑戦した。

ロランが自分の作品を記録、管理するために、早い時期から自作の油彩作品をドローイングにしてまとめていたスケッチブック『真実の書』(Liber Veritatis) は、ロランの画業を知る上で非常に貴重な資料であるが、これをロランの死後、イギリスのデヴォンシャー公爵が手に入れた。このスケッチをもとに1774年から1777年にかけてメゾチントで複製したのは、イギリス人版刻師のリチャード・アールム (Richard Earlom, 1743–1822) であり^[3]、その後も多くのロランの油彩画やドローイングが複製を通して普及したのは、他でもないイギリスである。その背景には、版画技術の急速な発展があり、また風景画にナショナル・アイデンティティーを見出していたイギリスにおいて、ロランの作品への共感が高まっていく潮流があった。

[1] イギリスにおけるロラン作品の収集については、次の文献を参照。Marcel Roethlisberger, *Claude Lorrain: The Drawings, Catalog*, University of California Press, Berkeley and Los Angeles, 1968

[2] *Encyclopedia of World Art*, Vol.4, revised printing, McGraw-Hill Book Company, Inc., New York, Toronto, London, 1972, p.748-749

当館が2003年に受贈した小島烏水旧蔵の西洋版画コレクションの中に、ロランの作品を複製したと思われる版画集『ミュージアム・クロード』(The Museum Claudes)のパート3およびパート4が含まれている。烏水旧蔵の西洋版画については本稿では詳しく述べないが、銀行員として勤める傍ら、文学者、登山家、美術研究者、美術品コレクターとしても活動し、膨大なコレクションを形成した烏水は、イギリスの美術批評家・ジョン・ラスキン(John Ruskin, 1819-1900)の『近代画家論』を熟読し、彼の自然観や美術論に傾倒していた^[4]。烏水が『近代画家論』を通してラスキンが語るロランについて知り、その作品を求めたのは自然な流れであったろう^[5]。

『ミュージアム・クロード』について、イギリスの画家・版刻師のフレデリック・クリスチャン・ルイスがロランの作品をもとに制作した版画集であることまではわかっているが、ロランのどの作品に基づき、どのような背景のもとで制作されたのかなどの詳細は不明で、そのような情報がまとめられた文献も見つからない。また、横浜美術館以外で本版画集の国内での所蔵は確認できていない。そこで小論は、『ミュージアム・クロード』の基本的な情報を明らかにすることを試みる。まず、本館が所蔵しているパート3、4からわかることを整理した上で、本版画集全体の構成と内容を解明したい。次にルイスの経歴を紹介し、彼の画業において『ミュージアム・クロード』が占める位置を明らかにする。最後に、本版画集が制作された目的と、いかに受容されたのかを考察したい。

2. 所蔵作品、版画集『ミュージアム・クロード』について

当館が所蔵しているのは、『ミュージアム・クロード』のパート3が表紙を含めて20点、パート4が表紙を含めて23点である。それに、パート3、4の作品リスト(fig.1)を加えた計44点が所蔵品として登録されている。この作品リストは、タイプ打ちされていることから、出版当初に版画集に付属されていたオリジナルではなく、後年に第三者が付したものと考えられる。このリストに記載されながらも当館が所蔵していない作品も含め、今回の調査で解明したパート3と4の作品データ、作品図版を表1にまとめた。紙の大きさはどれも34×51cm(約13.4×20.1 in)ほどで、当時の版画用の紙のサイズ

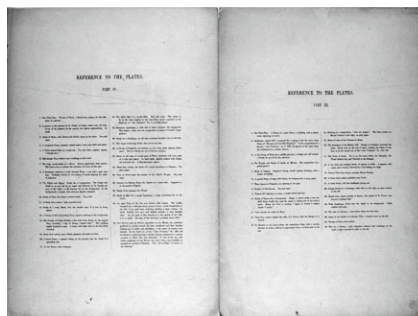


fig.1
制作者不詳、「ミュージアム・クロード」
パート3・4の作品リスト、制作年不詳
印刷(タイプ打ち)
各50.4×34.3cm(二つ折り)横浜美術館

- [3] ロランのドローイングをまとめた『真実の書』はデヴォンシャー公爵2世が1728年頃に手に入れてから、1957年にデヴォンシャー公爵9世の税金の代わりに大英博物館に寄贈されるまで、チャッツワース・ハウスに保管されていた。このドローイング集をもとに、版元ジョン・ボイデルがアームに版画化を依頼し、1774年から3年の歳月をかけて出版したメゾチント版画集『真実の書』は、ターナーやコンスタブルをはじめ、イギリス国内外の画家たちに強い衝撃を与えたと考えられている。ロランの『真実の書』については、次の文献に詳しい。Michael Kitson, *Claude Lorrain: Liber Veritatis*, British Museum Publications Ltd., London, 1978
- [4] 小島烏水の西洋版画コレクションについては、次の文献に詳しい。沼田英子『横浜美術館叢書⑧ 小島烏水 西洋版画コレクション』有隣堂、2003年
- [5] ラスキンのロラン批評については、次の文献を参照。John Ruskin, *Modern Painters*, volume 1, Smith, Elder & Co., London, 1843、ジョン・ラスキン著、内藤史郎訳『風景の思想とモラルー近代画家論・風景編』法蔵館、2002年

の中ではCrown (15×20 in) よりも少し小さい。技法は、エッチングとアクアチントによるものがほとんどだが、ドライポイントを併用しているものも数点認められる (fig.2)。プレートの余白部分下部には、パートとプレートのナンバー、「Claude F□t」と「F.C.Lewis St」または「F.C.Lewis Sct」と思しき文字が認められる (fig.3, 4)。「Fect.」か「Fet.」だとすればラテン語で「has made」、すなわち原画の作者を意味し、「Sct.」はラテン語で「has engraved」、すなわち版刻師を意味する^[6]。パート3のNo.2とパート4のNo.28の右下部には「184□」らしき数字もあり、これらの版画の制作年が1840年以降であることが推考できる。

パート3の表紙には、穏やかな風景画の上部に「THE MUSEUM CLAUDES, PART 3d. IN 28 PLATES.」、下部に「ENGRAVED & PUBLISHED BY F.C.LEWIS Engraver to the Queen 53 Charlotte St. Portland Place」という記載がある (fig.5)。パート3は全部で28点から構成されること、ルイスが制版および出版を担っていたこと、ルイスが女王に仕えていた版刻師であったこと、そしてルイスの工房の住所がここから読み取れる。パート4の表紙には、画面の左半分に樹木がフレームのように配され、画面の右半分に「THE MUSEUM CLAUDES PART 4, IN 30 PLATES, THE WHOLE WORK IN 100 PLATES



fig.2
クロード・ロラン (画)、フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)「ミュージアム・クロード」パート4、No.28 (部分)、1840年、エッチング、アクアチント、ドライポイント、17.6×23.6cm、横浜美術館

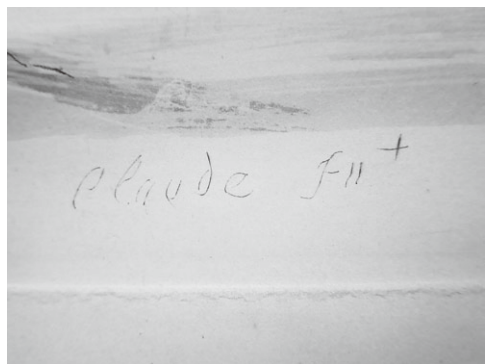


fig.3
クロード・ロラン (画)、フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)「ミュージアム・クロード」パート3、No.3 (部分)、1840年、エッチング、アクアチント 20.2×24.5cm、横浜美術館



fig.4
クロード・ロラン (画)、フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)「ミュージアム・クロード」パート3、No.8 (部分)、1840年、エッチング、アクアチント 15.0×26.5cm、横浜美術館



fig.5
クロード・ロラン (画)、フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)「ミュージアム・クロード」パート3、表紙、1840年 エッチング、アクアチント、ドライポイント 11.7×17.0cm、横浜美術館

[6] Ad Stijnman, 'Appendix 3: Terms in print addresses', *Engraving and Etching 1400-2000: A History of the Development of Manual Intaglio Printmaking Processes*, Archetype Publications, London, in association with HES and DE GRAAF Publishers, Leiden, 2012

ENGRAVED BY F.C.LEWIS, ENGRAVER TO THE QUEEN.」
という題字がある (fig.6)。画の外の余白部分下部には「Published
by F.C.LEWIS, 53 Charlotte St. Portland Place」の記述がある。
ここからは、パート4は全部で30点からなり、この版画集全体と
しては100点から構成されていることがわかる。更に、このパート
4が本シリーズの最終巻であることと、パート1とパート2はあわ
せて42点あることが推測できる。

次に主題を見ていこう。中世の叙事詩の一場面を描いたパー
ト3のNo.2 (P3-2、以下同様に略記) や、旧約聖書やキリスト
教の聖人の物語の一場面を描いた作品 (P3-4, 13, 14, 16, 24,
P4-21, 30) が見られる一方で、人物は描かれず、どこかは特定
できない自然の風景を捉えた作品 (P3-3, 19, 20, P4-18, 19, 23)
も目を引く。また、パート3の表紙を含め、ティボリに代表される、
ロランが愛したイタリアの建造物のある風景を描いたもの (P3-
11, 15, 21, 23, 28, P4-25) や、農民や牧畜民などを配した牧歌
的風景を描いたもの (P4-4, 7, 8, 20, 22) もある。その他にも、
彫刻の立っている庭園 (P3-26) や建造物の内部を捉えた作品

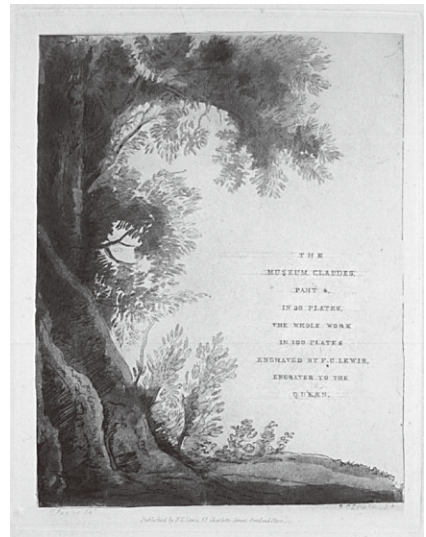


fig.6
クロード・ロラン (画)、フレデリック・クリス
チャン・ルイス (刻) 『ミュージアム・クロード』
パート4、表紙、1840年、エッチング、アクア
チント、ドライポイント
26.2×20.2cm 横浜美術館

(P4-2) も、1点ずつではあるが含まれる。これらのようにピクチャレスクな風景画のルールにのっとった構図の^[7]、ロランらしい作品が目につくと同時に、ロランの風景画の添景としてしばしば配される人物や動物だけを描いたスケッチ (P3-7, 8, 18) や、植物や樹木を丁寧に観察して描いたスケッチ (パート4の表紙、P3-6, P4-6, 9, 10, 11, 12, 13, 24, 27, 28)、港をしばしば描いたロランの作品には欠かせない船のスケッチ (P4-5) があることに注目したい。風景を全体として捉えたものから、人物や動物、木々など、風景画を構成する要素を描いたものまで幅広い。その線が、丁寧に引かれたものというよりスケッチのように素早いタッチで対象を把握していることから、これらの版画はロランのスケッチをもとにしていると考えられる。

3. 『クロード・ロランの模倣』と『クロード・ロランの研鑽の書』

今回の調査で、『ミュージアム・クロード』と関連付けられる、ルイスがロランの作品に基づき制版した版画集の所在を4件と、オークションへの出品を1件確認することができた^[8]。現物を実見することは叶っていないが、ウェブサイト公開されている情報を表2にまとめた。1件ごとに分析していきたい。

[7] どのような風景画がピクチャレスクかという定義は大変難しいが、18世紀後半に興ったロランが描いた風景画のような景観をイギリスの田園風景に見ようとする動きを発端に、ピクチャレスクという概念はイギリスにて熱狂的に歓迎された。18世紀のピクチャレスク概念の定義については、エドモンド・バークとウィリアム・ギルピンの著書を参照されたい。ロランの風景画におけるピクチャレスクな要素の検証については、次の文献に詳しい。藤田治彦「ピクチャレスク・ランドスケープの構成要素：クロード・ロランの風景画をめぐって」『人文』36巻、pp.47-71、京都工芸繊維大学工芸学部、1988年

まず、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ (Royal Academy of Arts, London) が所蔵している版画集は『クロード・ロランの模倣』(Imitations of Claude Lorraine) である^[9]。副題が「Engraved From The Drawings In The British Museum」で、大英博物館に所蔵されているドローイングを版画化したものだということが読み取れる。1837年の出版となっており、ルイスの名に「王の版刻師」(Engraver to the King) という肩書が付されている。所蔵館では書物として登録されているためか技法と形態が記載されていないが、風景版画20点から構成されており、神殿のような建造物が描かれた表紙と、作品リスト、予約者のリストを加えた合計23点が収められているようだ。

次に、ロサンゼルススのゲッティ研究所 (Getty Research Institute, Los Angeles) が所蔵しているのは『クロード・ロランの研鑽の書』(Liber Studiorum of Claude Lorraine) というエッチングとアクアチントによる版画集である^[10]。ロイヤル・アカデミーが所蔵している版画集と主タイトルは異なるが、大英博物館所蔵のドローイングに基づいた版画であることが、ゲッティ研究所が公開している書誌情報に示されている同一の副題から読み取れる。ゲッティ研究所所蔵の『クロード・ロランの研鑽の書』は4つのパートに分かれていて、パート1が20点、パート2が2点欠けていて19点、パート3が28点、パート4が30点の合計97点を所蔵している。『ミュージアム・クロード』というタイトルは記載されていないが『クロード・ロランの研鑽の書』のパート3と4のプレート数が、本館所蔵の『ミュージアム・クロード』のパート3と4の作品リスト上の点数と一致する。また、シリーズ全体のタイトルとしては『クロード・ロランの研鑽の書』と登録されているが、本書誌情報の備考欄の記述に依ると、パート1の表紙に1837年に出版された「クロード・ロランの模倣」と記されていることから、ロイヤル・アカデミーが所蔵している版画集と同一のものであると考えてよいだろう。つまり、ロイヤル・アカデミー所蔵の『クロード・ロランの模倣』がパート1で、続くパート2から4までが『クロード・ロランの研鑽の書』というタイトルの下にまとめられ、同じシリーズの版画集だと推定できる。

サンフランシスコにあるデ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、サンフランシスコ美術館 (de Young, Legion of Honor, Fine Arts Museums of San Francisco, San Francisco) は唯一、作品図版をウェブサイトで公開している。この館が所蔵しているのは『クロード・ロランの模倣』と『クロード・ロラン

[8] 小論執筆後、この他にも、横浜美術館の中村尚明主任学芸員にご教示いただき、ハイデルベルク大学図書館 (Hauptbibliothek Altsradt, Heidelberg) に『クロード・ロランの模倣』が、セント・アンドリュース大学 (University of St. Andrews Library, St Andrews) に『クロード・ロランの研鑽の書』が所蔵されていることを確認した。

[9] ロイヤル・アカデミー・オブ・ロンドンに所蔵されているルイスの版画集は、Record No. : 05/889。作品データは次のウェブサイト参照した。(2017年2月13日アクセス) http://www.racollection.org.uk/ixbin/indexplus?_IXSR_=&_IXSP_=3&_MREF_=54883&_IXACTION_=display&_IXSPFX_=templates/full/&_IXlink=y

[10] ゲッティ研究所に所蔵されているルイスの版画集は、版画コレクションのID/Acc. No. : 2833-040/ 2010.PR.23。メールで問い合わせたところ、画像公開に向けて準備を進めているという情報を得たが、小論執筆時には間に合わなかった。作品データは次のウェブサイト参照した。(2017年2月13日アクセス) [http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/display.do?jsessionid=69FC0F28FDC9916716148A508CAF23D2?tabs=detailsTab&ct=display&fn=search&doc=GETTY_ALMA21143515660001551&indx=1&recIds=GETTY_ALMA21143515660001551&recIdxs=0&elementId=0&renderMode=poppedOut&displayMode=full&frbrVersion=&query=any%2Ccontains%2Cclaude+liber+studiorum&dscnt=0&search_scope=ALMA_DIGITAL&scp.scps=scope%3A%28GETTY_EAD2%29%2Cscope%3A%28GETTY_NEWBOOKS%29%2Cscope%3A%28GETTY_ROSETTA%29%2Cscope%3A%28GETTY_ALMA%29&v1\(IUIStartWith0\)=contains&v1\(21781791UI0\)=any&vid=GRI&mode=Basic&highlight=true&institution=01GRI&queryTemp=claude+ liber+studiorum&tab=all_gri&x=7&y=4&displayField=all&v1\(freeText0\)=claude%20liber%20studiorum&group=GUEST&dstmp=1486797020481](http://primo.getty.edu/primo_library/libweb/action/display.do?jsessionid=69FC0F28FDC9916716148A508CAF23D2?tabs=detailsTab&ct=display&fn=search&doc=GETTY_ALMA21143515660001551&indx=1&recIds=GETTY_ALMA21143515660001551&recIdxs=0&elementId=0&renderMode=poppedOut&displayMode=full&frbrVersion=&query=any%2Ccontains%2Cclaude+liber+studiorum&dscnt=0&search_scope=ALMA_DIGITAL&scp.scps=scope%3A%28GETTY_EAD2%29%2Cscope%3A%28GETTY_NEWBOOKS%29%2Cscope%3A%28GETTY_ROSETTA%29%2Cscope%3A%28GETTY_ALMA%29&v1(IUIStartWith0)=contains&v1(21781791UI0)=any&vid=GRI&mode=Basic&highlight=true&institution=01GRI&queryTemp=claude+ liber+studiorum&tab=all_gri&x=7&y=4&displayField=all&v1(freeText0)=claude%20liber%20studiorum&group=GUEST&dstmp=1486797020481)

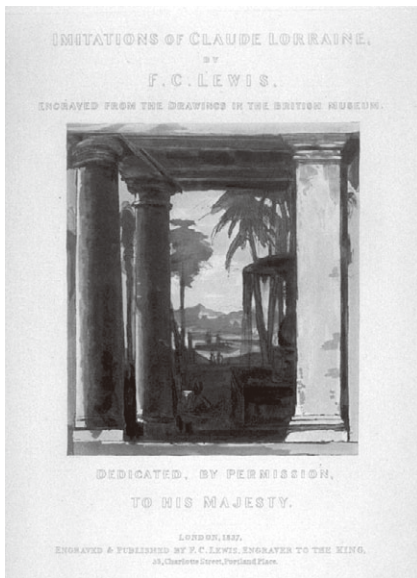


fig.7
 クロード・ロラン (画)、
 フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
 『クロード・ロランの模倣』表紙
 1837年、アクアチント、エッチング
 27.6×22.4cm (image)
 デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
 サンフランシスコ美術館
 © Fine Arts Museums of San Francisco
 URL : www.famsf.org.

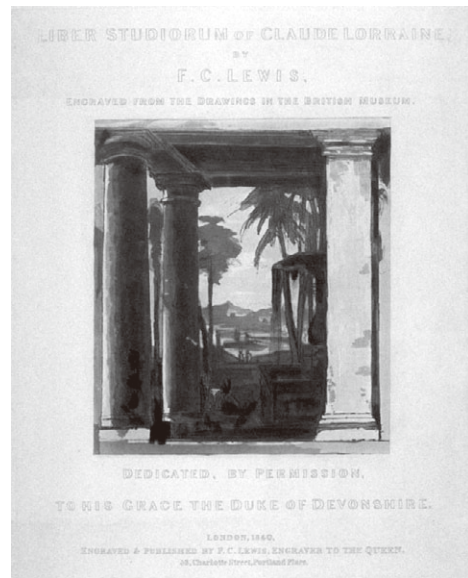


fig.8
 クロード・ロラン (画)、
 フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
 『クロード・ロランの研鑽の書』パート2、表紙
 1840年、アクアチント、エッチング
 27.6×22.2cm (image)
 デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
 サンフランシスコ美術館
 © Fine Arts Museums of San Francisco
 URL : www.famsf.org.



fig.9
 クロード・ロラン (画)、
 フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
 『クロード・ロランの模倣』No.12 (部分)
 1837年、アクアチント、エッチング
 29×38cm (image)
 デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
 サンフランシスコ美術館
 © Fine Arts Museums of San Francisco
 URL : www.famsf.org.

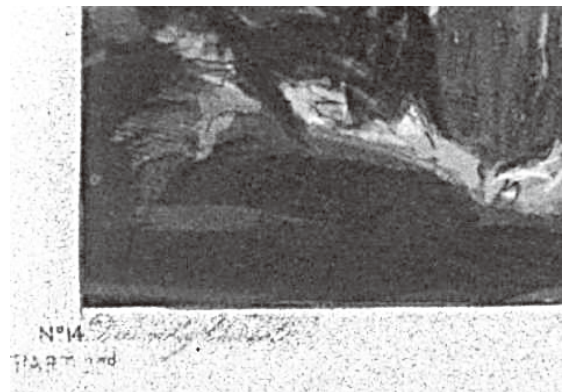


fig.10
 クロード・ロラン (画)、
 フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
 『クロード・ロランの研鑽の書』パート2、No.14 (部分)
 1840年、アクアチント、エッチング
 23.7×30.3cm (image)
 デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
 サンフランシスコ美術館
 © Fine Arts Museums of San Francisco
 URL : www.famsf.org.

の研鑽の書』であり、前者をパート1、後者をパート2と掲載している (fig.7, 8) [11]。プレート1の左下に、パート1はプレートナンバーが、パート2はパートとプレートナンバーが記載されている。(fig.9, 10) 両者とも同様にエッチングとアクアチントによる版画集で、パート1が1837年、パート2が1840年に出版されていることが表紙の表記からわかる。プレート数は、パート1と2ともに表紙を含めて21点ずつから構成されており、あわせて42点という数字は、『ミュージアム・クロード』のパート4の表紙に記された総数100プレートから逆算される、パート1と2を合わせたプレート数と一致する。ロイヤル・アカデミー所蔵のパート1の作品リストと比較できていないが、パート1の『クロード・ロランの模倣』と同様に、パート2にも作品リストが付属している (fig.11)。このリストが、パート2が20点からなり、表紙を入れて21点であることの根拠となる。

また、パート1の表紙には「王に捧ぐ」(Dedicated to His Majesty)、パート2の表紙では「デヴォンシャー公爵殿下に捧ぐ」(Dedicated to His Grace to Duke of Devonshire) と記されている。更には、ルイスのことをパート1では「王の版刻師」と称しているのに対し、パート2では「女王の版刻師」(Engraver to the Queen) に変更されているのは、1837年6月20日にウィリアム4世が崩御し、ヴィクトリア女王が王位継承したゆえであろう。すなわち、表紙に1837年と記されたパート1は1837年6月より早い時期に出版されていた可能性が高い。

ウィーンのアルベルティーナ版画素描館図書室 (Graphische Sammlung Albertina, Wien) が所蔵している1837年出版の『クロード・ロランの模倣』は、作品の詳細が不明ではあるが、ロイヤル・アカデミー、ゲッティ研究所、サンフランシスコ美術館の3件の情報からロイヤル・アカデミー所蔵の版画集と同一のものであると考えられる [12]。更に、2009年6月30日にクリスティーズ・ロンドン (Christie's London, London) でのオークション (Sale7725, Lot253) で売却された『クロード・ロランの研鑽の書』は、ゲッティ研究所に所蔵されている版画集と形態が類似しており、点数もパート2の3点が欠けた状態で、表紙を含めて合計97点となる [13]。このセットには、シリーズ全体の表紙、ロランの経歴をまとめた「Life of Claude」、パート3と4の作品リストも含まれていたようだ。残念ながらこれらの内容は確認できていな

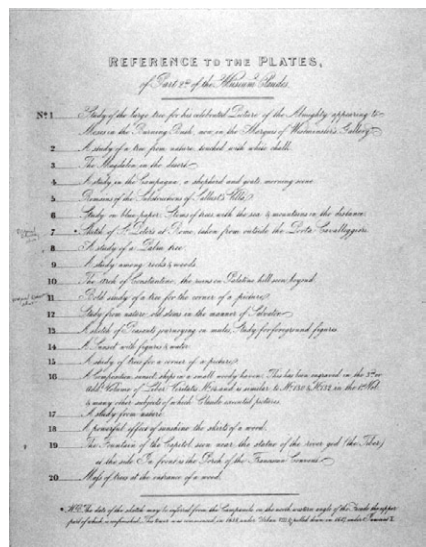


fig.11
フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)、
『クロード・ロランの研鑽の書』パート2の
作品リスト
1840年、エッチング、32.5×24.9cm (image)
デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
サンフランシスコ美術館
© Fine Arts Museums of San Francisco
URL : www.famsf.org.

[11] サンフランシスコ美術館に所蔵されているルイスの版画集の美術館所蔵品番号は公開されていない。作品データは次のウェブサイト参照した。(2017年2月13日アクセス) https://art.famsf.org/search?search_api_views_fulltext=Liber+studiorum+frederick+lewis

[12] アルベルティーナ版画素描館図書室に所蔵されているルイスの版画集の登録番号は公開されていない。本件については、中村尚明主任学芸員にご教示いただいた。作品データは次のウェブサイト参照した。(2017年2月13日アクセス) <http://sammlungenonline.albertina.at/Default.aspx?lng=english2#77ddd93c-1442-460c-81b0-5f0f827eab3b>

[13] クリスティーズ・ロンドンでオークションに出品されたルイスの版画集については、次のウェブサイト参照した。(2017年2月13日アクセス) <http://www.christies.com/lotfinder/books-manuscripts/claude-lorrain-lewis-frederick-christian-5210348-details.aspx>

いが、いずれのパートにも作品リストが付属していたようである。

ここまで、計5件のルイスの版画集について概要を確認してきた。サンフランシスコ美術館以外の所蔵館の版画集の図版は未確認のため、同一のものであることを判断するまでには至らなかったが、ウェブサイトを確認できる作品情報のうち、タイトル、出版年、巻数、プレート数などの一致より、これら5件は合計100点からなる『クロード・ロランの研鑽の書』という同一の版画シリーズであると考えてよいだろう。そして、本シリーズの概要が明らかになっていくに従い、『ミュージアム・クロード』との関連性、すなわち出版年の近接と、4パートによる構成とプレート数の一致が浮き彫りになってきた。Getty研究所に所蔵されている『クロード・ロランの研鑽の書』のパート3と4の作品図版と、当館所蔵の『ミュージアム・クロード』のパート3と4を照合することができなかったのは残念であるが、両者の関連性を様々な側面から以下に考察していきたい。

4. 三つの版画集：『ミュージアム・クロード』と『クロード・ロランの模倣』および『クロード・ロランの研鑽の書』

まず、『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズが大英博物館に所蔵されているロランのドローイングをもとにしての書誌情報があつたが、当館所蔵の『ミュージアム・クロード』にはそのような手掛かりは残されていない。『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズがもとにしてのドローイングを探すにしても、大英博物館に所蔵されているロランのドローイングは529点を数える^[14]。そこで参照したのが、版画集刊行当時の広告である。19世紀前半に刊行されていた書籍カタログ月刊誌『Bent's Monthly Literary Advertiser: Register of Books, Engravings, Music, &c.』（1802年創刊-1858年）に、『クロード・ロランの研鑽の書』パート2の広告が掲載されていた。管見の限り、本版画集についてこの広告に言及した研究は見当たらない。掲載されているのが確認できたのは、1840年1、5、6、8、9、10月号である（fig.12）。1月号に掲載された広告記事（fig.13）では、「美術館蔵のクロードによるドローイングを、ルイスが模倣した20プレートからなる（版画集の）パート2（a Second Part of Twenty Plates of Lewis's Imitations of the Museum Claude Drawings）」というキャッチコピーで告知されており、この版画集がデヴォンシャー公爵の後援を受けていること、20プレートからなること、価格は5ギニー（約5ポンド5シリング）、通常販売用のプリントは3ポンド12シリングで販売される予定だったことが読み取

BENT'S LITERARY ADVERTISER, JUNE

NOW READY, THE AUTHENTIC PORTRAIT OF
HIS ROYAL HIGHNESS PRINCE ALBERT,
FROM THE VERY BEAUTIFUL PICTURE PAINTED AT THE PALACE OF GOSWICK,
By Mr. FATTEN.
PORTRAIT PAINTER BY SPECIAL APPOINTMENT TO HIS ROYAL HIGHNESS.
The Plate is exactly the same size as the very popular Portrait of Her Most Gracious Majesty, from Mr. ELLIOT'S Picture,
to which it will form a perfect companion, and is engraved in the same style of Execution, by C. W. VAUGHAN, Del.
PAPER, 11 in.—PRICE, 10 s.—LITHO PAPER, 8 s.—BEFORE LETTERS, 4 s.

MESSRS. HODGSON AND GRAVES,
Her Majesty's Printers and Publishers, have the honor to announce that they have just published,
in conformity with a WARRANT under the Great Seal, bearing the names of HER MOST GRACIOUS MAJESTY, QUEEN VICTORIA,
THE ROYAL CORTEGE IN WINDSOR PARK,
INCLUDING THE
EQUESTRIAN PORTRAITS OF HER MAJESTY AND PRINCE ALBERT,
Painted by H. B. DAVIS, Esq.; and Engraved in the Best style of Execution by F. BROMLEY.
PAPER, 10 in.—PRICE, 4 s.—BEFORE LETTERS, 10 s.

HAGHE'S SKETCHES IN BELGIUM AND GERMANY,
Drawn & Etched from the Original Sketches made expressly for this Work during last Autumn,
By LOUIS HAGHE, Esq.
PAPER—Imperial folio, 41 in. half bound, Gilt-edged and Mounted, 10 s. 6 d. in a Portfolio.

Now ready, Part 2.
IN TWENTY PLATES, FROM THE COLLECTION IN THE BRITISH MUSEUM.
DESIGNED, BY PERMISSION, TO HIS GRACE THE DUKE OF DEVONSHIRE,
THE LIBER STUDIORUM OF CLAUDE LORRAIN.
This Collection was produced by the late Peter Paul RUBENS, Esq. Esq. From original designs, and engraved by him on the British Museum's
very superior stones from copper under the personal Command of His Majesty King GEORGE III. in the year 1740.
This work will be extremely useful to Artists and Engravers.
Price, bound with grey cloth—10 s. 6 d. in a Portfolio—2 s. 6 d. in a Portfolio.
Price of the two parts, with grey cloth—10 s. 6 d. in a Portfolio—2 s. 6 d. in a Portfolio.

LAWRENCE'S FINEST STUDIES FOR HIS CELEBRATED PICTURES.
Designed by permission, and under the special Patronage of
HER MOST GRACIOUS MAJESTY, QUEEN VICTORIA.
The following Plates, in Twenty Plates, are of the
No. 1. The Virgin's Prayer of Agony. No. 2. The Virgin's Prayer of Agony. No. 14. Visitation of Elizabeth.
No. 3. The Virgin's Prayer of Agony. No. 4. The Virgin's Prayer of Agony. No. 15. Visitation of Elizabeth.
No. 5. The Virgin's Prayer of Agony. No. 6. The Virgin's Prayer of Agony. No. 16. Visitation of Elizabeth.
No. 7. The Virgin's Prayer of Agony. No. 8. The Virgin's Prayer of Agony. No. 17. Visitation of Elizabeth.
No. 9. The Virgin's Prayer of Agony. No. 10. The Virgin's Prayer of Agony. No. 18. Visitation of Elizabeth.
No. 11. The Virgin's Prayer of Agony. No. 12. The Virgin's Prayer of Agony. No. 19. Visitation of Elizabeth.
No. 13. The Virgin's Prayer of Agony. No. 14. The Virgin's Prayer of Agony. No. 20. Visitation of Elizabeth.

From the Collection of the Marquis of LANSDOWN, Lord SOUTHWICK, Lord CRAWFORD, Lord ABERCROMBIE, Sir W. KENTON,
C. R. CALVERT, Esq., Lord FALCONER, Esq., and E. WOODHOUSE, Esq.
The whole Work, in 10 s. 6 d. in a Portfolio.
Engraved and Published by F. C. LEWIS, Engraver of Drawings to the Queen, 23, Charlotte Street, Portland Place,
and sold by all Stationers.

fig.12
『Bent's Monthly Literary Advertiser:
Register of Books, Engravings, Music, &c.』
1840年6月号、p.90

[14] ロランの手によるもの（508点）、ロラン帰属（8点）、かつてロラン帰属だと考えられていたもの（13点）を含む。次のウェブサイトを参照した。（2017年2月13日アクセス）http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx?people=129122&object=22909&peoA=129122-2-9|129122-2-10|129122-2-14

Also shortly will be published, a Second Part of
**TWENTY PLATES of LEWIS'S IMITATIONS of the MUSEUM
 CLAUDE DRAWINGS, under the Patronage of his Grace the Duke of
 Devonshire. The whole of the Fac-similies in 20 Plates, price of Proofs,
 Five Guineas; the Prints, 3l 12s.**
 * * * The first Part of this Collection already engraved and published by
 Mr. F. C. Lewis.

fig.13

『Bent's Monthly Literary Advertiser:
 Register of Books, Engravings, Music,&c.』
 1840年1月号、p.13 (部分)

Now ready, Part 2,
 IN TWENTY PLATES, FROM THE COLLECTION IN THE BRITISH MUSEUM,
 DEDICATED, BY PERMISSION, TO HIS GRACE THE DUKE OF DEVONSHIRE,
THE LIBER STUDIORUM OF CLAUDE LORRAIN.
 This Collection was purchased by the late Payne Knight, Esq. for fifteen hundred guineas, and bequeathed by him to the British Museum; they are mostly studies from nature to show the progress of Claude in his studies, as many of them are discernible in his "STUDIES FOR HIS PICTURES." This work will be interesting as forming another volume similar to thy "LIBER VERITATIS."
 Price, touched with grey colour, Proofs, 5l 5s, - Prints 3l 10s, Price of the two parts, with grey colour - 10l 10s, Proofs - 7l 7s, Prints.

fig.14

『Bent's Monthly Literary Advertiser:
 Register of Books, Engravings, Music,&c.』
 1840年6月号、p.90 (部分)

れる^[15]。販売が開始された後の6月号に掲載された広告記事 (fig.14) からは、ルイスが版画のもとにしているのは、ペイン・ナイトによって1500ギニーで購入され、後に彼の遺族から大英博物館に寄贈されたロランのドローイングのコレクションだという重要な情報が得られた^[16]。この記事の中で特に興味深いのは、「『真実の書』と同様のボリュームにまとまっている」という記述で、先に版画化され出版された『真実の書』に匹敵する版画集として宣伝している点である。ロランの作品をもとに制作された版画集の中でも代表的な『真実の書』を引き合いに出すことで、同様のクオリティと、同じ系譜に位置づけられる版画集であることをアピールし、販売促進の上でも効果的だと考えたのだろう。油彩の完成作に基づくロラン自身のスケッチブックを版画化した『真実の書』に対して、ロランの日々の鍛錬の様子を物語るスケッチを版画化した版画集を『研鑽の書』と名付けた理由も理解できる。

リチャード・ペイン・ナイト (Richard Payne Knight, 1750–1824) という人物は、ピクチャレスクの美学理論で知られる古典学者であり、美術品の収集家でもあった^[17]。彼が収集したロランのドローイング・コレクションは19世紀において最も大きなロラン・コレクションであり^[18]、ナイトの没した1824年にまとめて

[15] Google Booksに掲載されている次の文献を参照した。(2017年2月14日アクセス) https://books.google.co.jp/books?id=Jp9bAAAACAAJ&dq=bent%27s+literary+advertiser+clau+lorrain&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
The Monthly Literary Advertiser: Volume 5; Bent's Literary Advertiser, and Register of Engravings, on Works on the Fine Arts, etc. From January to December, 1840, published by Thomas Hodgson, London, 1840, p.13.
 "...shortly will be published, a Second Part of TWENTY PLATES of LEWIS'S IMITATIONS of the MUSEUM CLAUDE DRAWINGS, under the Patronage of his Grace the Duke of Devonshire. The whole of the Fac-similies in 20 Plates, price of Proofs, Five Guineas; the Prints, 3l 12s. The first Part of this Collection already engraved and published by Mr. F.C.Lewis."

[16] Ibid., p. 90, "Now ready, Part 2, IN TWENTY PLATES, FROM THE COLLECTION IN THE BRITISH MUSEUM. DEDICATED, BY PERMISSION, TO HIS GRACE THE DUKE OF DEVONSHIRE, THE LIBER STUDIORUM OF CLAUDE LORRAIN. This Collection was purchased by the late PAYNE KNIGHT, Esq. for fifteen hundred guineas, and bequeathed by him to the British Museum; they are mostly studies from nature to show the progress of Claude in his studies, as many of them are discernible in his "STUDIES FOR HIS PICTURES." This work will be interesting as forming another volume similar to thy "LIBER VERITATIS." Price, touched with grey colour, Proofs, 5l 5s, - Prints 3l 10s, Price of the two parts, with grey colour - 10l 10s, Proofs - 7l 7s, Prints."

8月号p. 122、9月号p. 136、10月号p. 147にも同様の広告が掲載されている。

[17] ナイトについては、次の文献が日本語で読めて詳しい。安西信一「リチャード・ペイン・ナイト『風景』: 解説と翻訳(1)」『美学藝術学研究』30号、2012年3月、pp. 185-294、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美学芸術学研究室

[18] Roethlisberger, op. cit., p. 72

大英博物館に遺贈された。その数は、現在の大英博物館のデータベース上で270点にのぼる^[19]。大英博物館に所蔵されているロランのドローイングの約半分がナイト旧蔵というわけだ。

当館所蔵の版画43点の原画となったドローイングも、そのナイト旧蔵コレクションの中に全て見つけることができた (fig.15, 16)。これにより、『ミュージアム・クロード』も大英博物館所蔵のロランのドローイングを版画化したものであることが明らかとなった。表1には、今回の調査で特定した、版画の原画であるドローイングの大英博物館の所蔵品番号を記載している。版画のイメージの寸法はもとのドローイングにほぼ忠実であり、技法についても、ロランの軽やかな筆致と淡彩を、線と面により再現することに成功している。更には、ロランのドローイングで省略されている細かい部分を、ルイスが版画で補っている作品も見受けられる (fig.17, 18)。

これで、『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズも『ミュージアム・クロード』も、大英博物館に所蔵されているナイト旧蔵のロランのドローイングを版画化したものであることが明らかとなった。ロランのドローイングのカタログ・レゾネを編纂したレートリスベルガーは、ルイスが制作したこれらの版画集について、1837年の『クロード・ロランの模倣』と、それを再編集して4巻で1840年に出版したものとして『クロード・ロランの研鑽の書』を挙げているのみである^[20]。そのうちのパート3と4が『ミュージアム・クロード』というタイトルのもとに刊行されたことには言及していない。なぜパート3と4が『ミュージアム・クロード』というタイトルに変更されたのかは明らかになっていないが、しかし、広告のキャッチコピーが「Imitations of Museum Claude Drawings」であることや、サンフランシスコ美術館に所蔵されているパート2の作品リストが「Part 2 of the Museum Claudes」と記述されていることから、「美術館蔵のクロードによるドローイング」を意味する「ミュージアム・クロード・ドローイング」という表記がパート2の出版時までに「ミュージアム・クロード」と省略され、その結果パート3以降はタイトルそのものを『ミュージアム・クロード』にするに至ったとも考えられるだろう。

以上の調査により、共にナイト旧蔵のロランのドローイング100点を、ルイスが版画化した4巻の版画集である点から、『ミュージアム・クロード』が『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズのパート3と4である可能性は高いと考えられる。



fig.15
クロード・ロラン、
〈黄金の子牛の礼拝〉のためのドローイング
ペン・茶色のインク・淡彩、紙、1650-1653年、
20.0×26.9cm、大英博物館
Oo.6.95, Bequest of Richard Payne Knight,
1824 © The Trustees of the British Museum



fig.16
クロード・ロラン、
〈無題 (木のドローイング)〉
黒いチョーク・淡彩、紙、1650年頃、
26.2×20.0cm、大英博物館
Oo.7.171, Bequest of Richard Payne
Knight, 1824
© The Trustees of the British Museum

[19] ロランの手によるもの (258点)、ロラン帰属 (7点)、かつてロラン帰属だと考えられていたもの (5点) を含む。次のウェブサイトを参照した。(2017年2月13日アクセス) http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx?people=112057++112057+|129122|112057&peoA=129122-2-9 レートリスベルガーによると、273点遺贈された。

[20] Roethlisberger, op. cit., p. 460, "Forty drawings in the British Museum, 1824, with fifty-two more in 1826, republished in part among the hundred drawings of British Museum for *Imitations of Claude Lorraine*, 1837, reedited as *Liber Studiorum of Claude Lorraine...*, London, 1840, a hundred plates in 4 vols."



fig.17
 クロード・ロラン、
 <無題（大きな葉のついた高い木とその後ろに
 立つ2人の女性のいる風景のドーイング）>
 ペン・茶色いインク・黒いチョーク、青い紙
 1669年、18.4×23.8cm、大英博物館
 Oo.6.83, Bequest of Richard Payne Knight, 1824
 © The Trustees of the British Museum



fig.18
 クロード・ロラン（画）、
 フレデリック・クリスチャン・ルイス（刻）
 「ミュージアム・クロード」パート3、No.6
 1840年、エッチング、アクアチント
 18.2×23.8cm、横浜美術館

5. フレデリック・クリスチャン・ルイスについて—ロランとターナーをつなぐ版刻師

それでは、『ミュージアム・クロード』を制作・出版したルイスはどのような人物だったのだろうか。次に彼の経歴をまとめ、彼の仕事の中で『ミュージアム・クロード』がどのような意味を持っていたのか考察したい。

フレデリック・クリスチャン・ルイス (Frederick Christian Lewis, 1779–1856) は、風景画の興隆期にロンドンに生まれた (fig.19)。1780–1812年頃までロンドンで活動したドイツ人版刻師、ヨーゼフ・コンスタンティーネ・シュタットラー (Joseph Constantine Stadler, 生没年不詳) のもとで版画を学び、1797年から1802年頃までロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで研鑽を積んだ。トーマス・ガーティン (Thomas Girtin, 1775–1802) が自身の水彩画をもとに制作したエッチングをルイスがアクアチントで完成させ、1803年に出版された版画集『パリとその近郊の最もピクチャレスクな20の景観』(Twenty of the most Picturesque Views in Paris and its Environs) によって注目を集める。すると、ジョージ3世の美術品コレクションの管理を託されていたジョン・チャンバーレーン (John Chamberlaine, 1745–1812) に見出され、王室のコレクションにあるラファエロやプッサン、そしてロランの作品を版画化する仕事を任せられた^[21]。その後、イ



fig.19
 ジョン・フレデリック・ルイス（画）
 チャールズ・ジョージ・ルイス（刻）
 《フレデリック・クリスチャン・ルイス》
 点刻彫版、1834年、25.4×18.4cm(plate)、
 31.8×23.5cm(sheet)、ロンドン・ナショナル・ポートレート・ギャラリー
 Purchased with help from the Friends of the National Libraries and the Pilgrim Trust, 1966 NPG D8489
 © National Portrait Gallery, London

[21] ルイスはロイヤル・コレクションの中のロランのドーイング17点を手がけた。その結果、1812年にチャンバーレーンが出版した版画集が *Keeper of the King's Medals and Drawings*, Balmer & Co., London, 1812である。Andrew Brink, *Ink and Light: The Influence of Claude Lorraine's Etchings on England*, McGill-Queen's University Press, Montreal & Kingston, London, Ithaca, 2013, p.81

ギリスを代表する肖像画家のトーマス・ローレンス (Thomas Lawrence, 1769–1830) のクレヨンによる肖像画を版画化し、ヴィクトリア女王をはじめとする王室に仕えた版刻師として確固たる地位を築いた。晩年はデヴォンシャーの風景を描いた油彩画でも知られ、1820年代から1840年代にかけてイングランドとウェールズの川の風景版画集を手掛けている (fig.20)。ロイヤル・アカデミーをはじめ、英国協会 (British Institution) や水彩画家協会 (Old Water-colour Society、現在の英国王立水彩画家協会の前身) への出品に励みながら、3人の息子の育成にも余念がなかった。長男ジョン・クリスチャン・ルイス (1805–76) と三男フレデリック・クリスチャン・ルイス (1813–75) は画家となり、次男チャールズ・ジョージ・ルイス (1808–80) は版刻師として知られている^[22]。

ロイヤル・コレクションの版画化という大仕事を務めるほど、実力と名声を獲得したルイスの仕事の中でも小論で注目すべきは、イギリスを代表する風景画家、ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー (Joseph Mallord William Turner, 1775–1851) がロランの『真実の書』に匹敵する版画集の制作に挑戦した『研鑽の書』(Liber Studiorum, 1807–19) への参画である。ターナーが自作のドローイング71点をもとに自らエッチングで輪郭線を彫った銅板を、当時の著名な版刻師たちにメゾチントで完成させたこの版画集は、その後のイギリス風景画へ多大な影響を与えたことで知られている^[23]。このシリーズの最初の1点を手がける版刻師として起用されたルイスだったが、残念なことにターナーとの意見の相違によって、結局《橋と山羊》(fig.21) 1点のみが、当初の予定から大幅に遅れて1812年に出版されるにとどまった^[24]。ルイスはのちに友人に、「このシリーズの制作にこれ以上携われなかったことを後悔している」と書いている^[25]。



fig.20
フレデリック・クリスチャン・ルイス (画・刻)
《ホルン近くのダートムーア》(『イングランドとウェールズの川の風景』より)
1845年、エッチング、43.2×29×3.8cm(book)
デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、サンフランシスコ美術館
© Fine Arts Museums of San Francisco
URL : www.famsf.org



fig.21
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー (画)
フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
《橋と山羊》(『研鑽の書』より)、1812年
エッチング、アクアチント、メゾチント
21.1×29.4cm (image)
デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、サンフランシスコ美術館
1963.30.30495, Achenbach Foundation for Graphic Arts
© Fine Arts Museums of San Francisco
URL : www.famsf.org

[22] フレデリック・クリスチャン・ルイスについては、次の文献とウェブサイトを参照した。(2017年1月30日アクセス)
Sidney Lee ed., *Dictionary of National Biography*, Volume 33, Smith, Elder, & Co., London, 1893.

<http://www.npg.org.uk/collections/search/person/mp52044/frederick-christian-lewis-br>

[23] ターナーの『研鑽の書』については、次の文献に詳しい。Alexander Joseph Finberg, *Joseph Mallord William Turner's Liber Studiorum: With a Catalogue Raisonné*, Alan Wofsy Fine Arts, San Francisco, 1924 ; reprint, 1988

[24] ルイスとターナーの間にどのような衝突があったのかは様々な憶測があるが、オリジナルのドローイングの線に忠実でないターナーのエッチングについてルイスが不満を持っていたことや、ルイスの報酬を上げて欲しいという願いを出してターナーが聞かなかったことなどが主な原因と考えられている。ターナーがルイスに送った書簡は次の文献を参照。John Cage, ed., *Collected Correspondence of J.M.W. Turner with an Early Diary and a Memoir by George Jones*, Clarendon Press, Oxford 1980, pp.31–34

[25] W.G.Rawlinson, *Turner's Liber Studiorum: A Description and a Catalogue*, Macmillan, London, 1878, p.185

ターナーの『研鑽の書』に携わった経験のあるルイスが、その後制作した版画集を『クロード・ロランの研鑽の書』と名付けたのには、何か理由があるように感じられる。若かりし時に志半ばで離れた仕事を、自身が出版元となり、制作することが叶ったロランの版画化の仕事に重ねて、「研鑽の書」という同じタイトルを採用したと考えることもできよう。

ロイヤル・コレクションに含まれているロランの作品の版画化、そしてロランにインスピレーションを受けたターナーの作品の版画化に携わってきたルイスにとって、100点にも及ぶロランのドローイングの版画化と出版を一人で担う、という仕事は、彼の版刻師としての仕事の集大成と呼ぶにふさわしい事業だったといっても過言ではないだろう。

6. おわりにー『ミュージアム・クロード』目的と受容

最後に、『ミュージアム・クロード』が『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズの一部であると仮定し、制作された目的と受容について考察していきたい。

『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズの後援者であったデヴォンシャー公爵は、ロランのスケッチブック『真実の書』を所蔵していた。新たに大英博物館のコレクションに加わったナイト旧蔵のロランのドローイングの版画化をデヴォンシャー公爵が願い、既にロイヤル・コレクションの版画化を担っていたルイスにその仕事を託したとしても不自然ではない。もしくは、その逆も考えられるだろう。あくまでも推察ではあるが、ロランのドローイングを版画化した『クロード・ロランの模倣』を購入したデヴォンシャー公爵は、これに続くシリーズの後援者となると同時に、『クロード・ロランの模倣』から『クロード・ロランの研鑽の書』へとタイトルの変更を希望したのかもしれない。パート2の表紙に突如としてデヴォンシャー公爵の名が登場する点が、タイトルの変更に何らかの関わりがあるようにも考えられるのだ。いかに出版に至ったかはいまだ謎に包まれているが、ルイスが本版画集を制作した動機、要因を知るために、周辺の人物との書簡や記録などを今後探っていく必要がある。

『クロード・ロランの研鑽の書』の受容については、サンフランシスコ美術館が所蔵している予約者リスト (fig.22) に手掛かりがあった。本リストには、ハンガリーの貴族・エステルハージ家のプリンスをはじめ、デヴォンシャー公爵以外にもベッドフォード公爵や多くの貴族、聖職者が名を連ねており、この版画集が上流階級と貴族階級にまず受け入れられたことがうかがえる。このリストには、あのジョン・コンスタブル (John Constable, 1776-1837) も含まれている。他の画家たちが買い求めた事実の可否を調査するのは容易ではないが、貴族の庇護のもと活躍していた画家たちや、コンスタブルを含むロイヤル・アカ

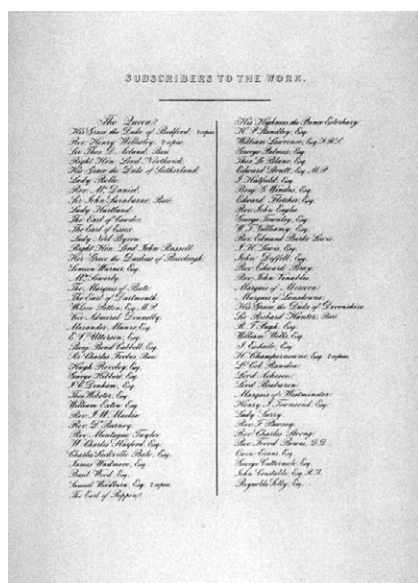


fig.22
フレデリック・クリスチャン・ルイス (刻)
『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズの
予約者リスト、1837年、エングレーヴィング
31.6×22.6cm、
デ・ヤング、リージョン・オブ・オナー、
サンフランシスコ美術館
© Fine Arts Museums of San Francisco
URL : www.famsf.org

デミーのメンバーが目にした可能性を明らかにしていくこともできるだろう。上流階級の名を列挙したりリストを公表することで、中産階級以下、特に産業革命後に資産を築いたブルジョワジーへの宣伝を狙っていたのではないだろうか。対して、富裕層は別として、出版当時にこの版画集を一般大衆が手にした可能性は極めて低いと考えられる。当時の労働者階級（農民、炭鉱夫、大工など）の平均年収が約32ポンドだった時代に^[26]、5ポンド、もしくは3ポンドもする本版画集を購入できたとは考え難い。19世紀前半から半ばにかけては公立図書館の開館なども相次いでいるが^[27]、このような美術版画集の普及については引き続き調査したい。

ブリנקは本版画集について、「決してポピュラーとは呼べないが、良質な紙、文字のデザイン、製本・装丁、プレートのクオリティーなど、当時のロンドンが成し得た素晴らしい技術を明らかにしてくれる」と評価している^[28]。当館に所蔵されている『ミュージアム・クロード』のパート3と4は、受贈時から既にルーズリーフの状態だったことから、どのような製本・装丁だったのかは判断できないが、冊子の状態でGetty研究所に所蔵されているパート1を実見できる機会があれば検証できるだろう。

小論では、『ミュージアム・クロード』の基本情報を明らかにしてきた。『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズのパート3、4である可能性、ルイスの経歴および本版画集の意義、制作目的と受容などの一端を考察することができた。レートリスベルガーがいうように、『クロード・ロランの研鑽の書』シリーズの全作品が揃って現存しているケースは極めて少なく^[29]、今回の調査においても全作品をセットで所蔵している公的コレクションを見つけることはできなかった。更に、本版画集が大変貴重な資料であると同時に、ロランの作品受容史において重要な作品群であることもわかってきた。サンフランシスコ美術館が所蔵しているパート1、2についての分析や、原画のドローイングと版画の比較、およびそこから見えてくるルイスの技術や創意工夫などの考察は今後の課題とし、より深い作品理解へとつなげていきたい。

[26] 日当をもとに、一年に312日間（一週間のうち6日間、52週間）働いた場合に獲得する給料を計算し、残業代、ボーナス、歩合等を足した一年間の所得から平均値を割り出した数値。

Gregory Clark, "What Were the British Earnings and Prices Then? (New Series)" *Measuring Worth*, 2017, URL: <http://www.measuringworth.com/ukearnncpi/>より（2017年1月30日アクセス）。

[27] 1850年に制定された公共図書館法（Public Libraries Act 1850）により、中産階級以下の人々にも図書館へのアクセスが改善された。しかし、1841年に開館したロンドン図書館や1857年に開館した大英博物館図書館は、専門家や研究者のみが登録することができ、登録メンバーのみの閲覧に制限されていた。

[28] Brink, op. cit., p. 9, "...cannot be called "popular" publishing, Lewis's books in particular reveal the technical excellence that London book trade could attain: fine paper, typeface, binding, and quality of plates."（拙訳）

[29] Roethlisberger, op. cit., p. 460, "His numerous engravings of drawings by Claude appeared in the following sets, of which only a few complete ones are now in existence."

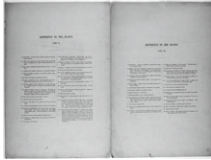







表1：『ミュージアム・クロード』パート3、4 作品リスト








凡例：本表は、『ミュージアム・クロード』のパート3および4について、調査の結果を執筆者がまとめた。横浜美術館に所蔵されている作品のみ、作品図版を挿入した。作家名は全てクロード・ロラン（画）・フレデリック・クリスチャン・ルイス（刻）とし、本表では省略した。作品データは、プレートナンバー/タイトル、制作年、技法、サイズ (image) cm、サイズ (sheet) cm、署名・記述、主題、大英博物館所蔵の原画の所蔵品番号、原画のカタログ・レゾネ番号、備考、横浜美術館所蔵品番号の順に記載した。□は判読が難しい箇所、[] 内は執筆者が補足した箇所である。


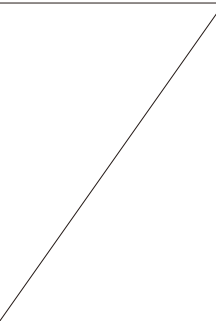


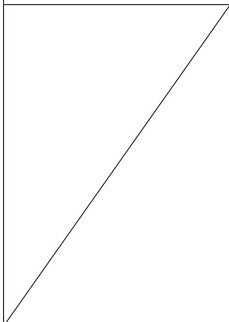
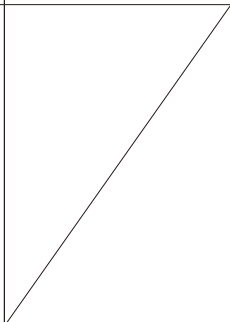




原画のカタログ・レゾネは、以下の略号で表記した。



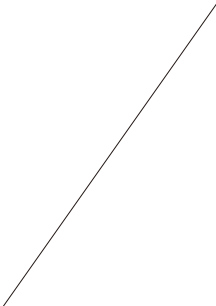







Hind: Arthur Mayger Hind, *Catalogue of the Drawings of Claude Lorrain in the Department of Prints and Drawings in the British Museum*, British Museum, London, 1926


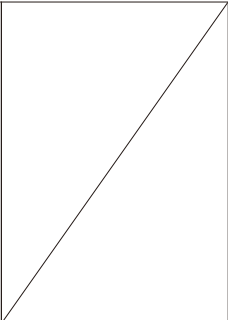


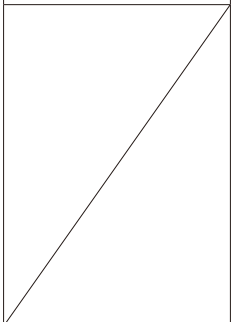

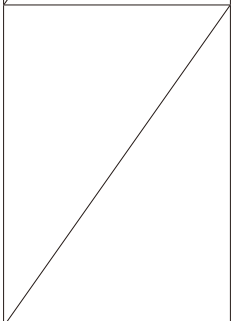

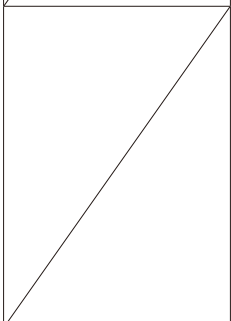

Roethlisberger: Marcel Roethlisberger, *Claude Lorrain: The Drawings*, University of California Press, Berkeley and Los Angeles, 1968

	<p>パート3、4の作品リスト 不詳 印刷(タイプ打ち) 各50.4×34.3cm(二つ折り) 2003-PRF-295</p>	/	<p>パート3、No.5 1840年 座る羊飼いと衣服の入ったバスケット を持ち歩く農婦</p>
 <p>THE MUSEUM CLAUDES, PART 3d. IN 28 PLATES. ENGRAVED & PUBLISHED BY F.C.LEWIS Engraver to the Queen 53 Charlotte St. Portland Place</p>	<p>パート3、表紙 1840年 エッチング、アクアチント、 ドライポイント 11.7×17.0cm、50.3×34.2cm (イメージ外)左下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 塔の見える風景 Oo.6.45 Hind 143 / Roethlisberger 384 2003-PRF-294</p>		<p>パート3、No.6 1840年 エッチング、アクアチント 18.2×23.8cm、33.7×51.3cm (イメージ外)左下: No6. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 大きな植物とその背後に2人の女性 Oo.6.83 Hind 1926 111 / Roethlisberger 1003 2003-PRF-299</p>
	<p>パート3、No.2 1840年 エッチング、アクアチント 14.5×23.5cm、34.3×51.1cm (イメージ外)左下: No2. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 1840 エルミニアと羊飼いのいる風景 Oo.8.263 Hind 309 / Roethlisberger 1100 2003-PRF-296</p>		<p>パート3、No.7 1840年 エッチング、アクアチント 15.7×23.9cm、34.4×50.9cm (イメージ外)左下: No7. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 三人の農民、一人はパイプを吹く Oo.7.140 Hind 214 / Roethlisberger 687 2003-PRF-300</p>
	<p>パート3、No.3 1840年 エッチング、アクアチント 20.2×24.5cm、34.3×50.9cm (イメージ外)左下: No3. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 川沿いの橋と木々 Oo.6.132 Hind 175 / Roethlisberger 465 2003-PRF-297</p>		<p>パート3、No.8 1840年 エッチング、アクアチント 15.0×26.5cm、34.1×51.3cm (イメージ中)左下: Claude F□t (イメージ外)左下: No7. PART 3rd/ 右下: F.C.Lewis St 荷馬 Oo.6.40 Hind 109 / Roethlisberger 205 2003-PRF-301</p>
	<p>パート3、No.4 1840年 エッチング、アクアチント 19.5×24.8cm、34.1×51.3cm (イメージ外)左下: No4. PART 3rd/ 中央下: l'oracollo d'apollo mile[sio] Cavato a la favola di Psiche/ 右下: F.C.Lewis ミレトスのアポロン神殿にて、犠牲を 捧げるプシケの父親のいる風景 Oo.8.249 Hind 281 / Roethlisberger 1013 2003-PRF-298</p>	/	<p>パート3、No.9 1840年 パイプを吹く農民の娘と近くに座る若者</p>

	<p>パート3、No.10 1840年 天使とハガルのいる風景</p>		<p>パート3、No.15 1840年 エッチング、アクアチント 20.1×26.7cm、34.1×51.4cm (イメージ中)左下: Claude (イメージ外)左下: No15. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St ※二重に刻印されている パラティーノの廃墟 Oo.654 Hind 12 / Roethlisberger 450 2003-PRF-305</p>
	<p>パート3、No.11 1840年 エッチング、アクアチント 11.5×18.0cm、34.3×51.0cm (イメージ外)左下: No11. PART 3rd/ 中央下: [Claude F□t] ※薄くて確認困難/ 右下: F.C.Lewis St 城壁の外に広がる風景 Oo.658 Hind 138 / Roethlisberger 638 2003-PRF-302</p>		<p>パート3、No.16 1840年 エッチング、アクアチント 20.4×27.1cm、33.9×51.6cm (イメージ外)左下: No16. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 黄金の子牛の礼拝 Oo.695 Hind 218 / Roethlisberger 726 2003-PRF-306</p>
	<p>パート3、No.12 1840年 教会の尖塔が見える城壁の外に広がる風景</p>		<p>パート3、No.17 1840年 ヨナと鯨</p>
	<p>パート3、No.13 1840年 エッチング、アクアチント 20.0×26.1cm、34.3×51.1cm (イメージ外)左下: No13. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 聖エウスタキウスの幻視 Oo.8248 Hind 307 / Roethlisberger 1025 2003-PRF-303</p>		<p>パート3、No.18 1840年 エッチング、アクアチント 17.4×24.8cm、34.3×50.6cm (イメージ外)左下: No18. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 棒を持つ農民と女性、2匹の犬を従える男性 Oo.7153 Hind 201 / Roethlisberger 555 2003-PRF-307</p>
	<p>パート3、No.14 1840年 エッチング、アクアチント 17.1×28.2cm、33.5×51.3cm (イメージ外)左下: No14. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St ノリ・メ・タンゲレ Oo.8265 Hind 312 / Roethlisberger 1116 2003-PRF-304</p>		<p>パート3、No.19 1840年 エッチング、アクアチント 20.4×33.0cm、33.8×51.2cm (イメージ中)左下: Claude (イメージ外)左下: No19. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St ソラッテ山 Oo.7158 Hind 148 / Roethlisberger 362 2003-PRF-308</p>

	<p>パート3、No.20 1840年 エッチング、アクアチント 17.2×24.0cm、34.1×51.0cm (イメージ中)左下: Claude (イメージ外)左下: No20. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St ティボリの風景 Oo.7.203 Hind 64 / Roethlisberger 442 2003-PRF-309</p>		<p>パート3、No.25 1840年 川沿いの風景</p>
	<p>パート3、No.21 1840年 エッチング、アクアチント 17.5×24.7cm、34.3×50.8cm (イメージ外)左下: No21. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 塔のある海岸風景 Oo.6.115 Hind 56 / Roethlisberger 393 2003-PRF-310</p>		<p>パート3、No.26 1840年 エッチング、アクアチント 20.3×27.3cm、34.1×51.3cm (イメージ外)左下: No26. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 女性の彫像のある庭 Oo.7.206 Hind 48 / Roethlisberger 103 2003-PRF-313</p>
	<p>パート3、No.22 1840年 木のある風景</p>		<p>パート3、No.27 1840年 木々</p>
	<p>パート3、No.23 1840年 エッチング、アクアチント 19.8×27.0cm、34.3×51.0cm (イメージ外)左下: No23. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St サン・ピエトロ大聖堂の見える風景 Oo.6.122 Hind 15 / Roethlisberger 59 2003-PRF-311</p>		<p>パート3、No.28 1840年 エッチング、アクアチント 17.6×23.6、34.1×50.9cm (イメージ外)左下: No28. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 古代の神殿が崖の上に見える風景 Oo.7.204 ※版画と反転 Hind 228 / Roethlisberger 713 2003-PRF-314</p>
	<p>パート3、No.24 1840年 エッチング、アクアチント 20.3×31.3cm、34.3×50.6cm (イメージ外)左下: No24. PART 3rd/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St トビと天使 Oo.6.133 Hind 287 / Roethlisberger 913 2003-PRF-312</p>	 <p>THE MUSEUM CLAUDES PART 4. IN 30 PLATES. THE WHOLE WORK IN 100 PLATES ENGRAVED BY F.C.LEWIS. ENGRAVER TO THE QUEEN. Published by F.C.LEWIS, 53 Charlotte St. Portland Place</p>	<p>パート4 表紙 1840年 エッチング、アクアチント、 ドライポイント 26.2×20.2cm、51.0×34.3cm (イメージ外)左下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 大木 Oo.7.171 Hind 71 / Roethlisberger 679 2003-PRF-315</p>

	<p>パート4、No.2 1840年 エッチング、アクアチント 22.3×15.6cm、51.0×34.5cm (イメージ中)左下: Claude/ 右下: F.C.Lewis (イメージ外)左下: No2. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St サン・ピエトロ大聖堂の内部、2人の人物 Oo.7.152 Hind 103 / Roethlisberger 451 2003-PRF-316</p>		<p>パート4、No.7 1840年 エッチング、アクアチント 29.6×20.0cm、50.4×34.3cm (イメージ外)左下: No7. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 川岸に座る人物と対岸のいる風景 Oo.6.107 Hind 156 / Roethlisberger 885 2003-PRF-320</p>
	<p>パート4、No.3 1840年 帆をたたんだボートのある浜辺の風景</p>		<p>パート4、No.8 1840年 エッチング、アクアチント 25.2×18.5cm、51.3×34.2cm (イメージ外)左下: No8. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 裸の牛飼いがいる牧歌的風景 Oo.6.66 Hind 230 / Roethlisberger 147 2003-PRF-321</p>
	<p>パート4、No.4 1840年 エッチング、アクアチント 24.8×17.9cm、51.1×34.3cm (イメージ外)左下: No4. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 木の下に座る農民、牛と山羊のいる風景 Oo.6.110 Hind 273 / Roethlisberger 940 2003-PRF-317</p>		<p>パート4、No.9 1840年 エッチング、アクアチント 25.6×20.2cm、51.0×30.6cm (イメージ外)左下: No9. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St エジプトへの逃避 Oo.7.168 Hind 275 / Roethlisberger 887 2003-PRF-322</p>
	<p>パート4、No.5 1840年 エッチング、アクアチント 27.5×22.8cm、51.1×34.3cm (イメージ中)左下: Claudio fecit (イメージ外)左下: No2. PART 4th/ 右下: F.C.Lewis St 嵐の中を進む船 Oo.6.99 Hind 4 / Roethlisberger 282 2003-PRF-318</p>		<p>パート4、No.10 1840年 エッチング、アクアチント 24.3×17.6cm、44.8×34.5cm (イメージ外)左下: No10. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 丘の上の木々 Oo.7.187 Hind 70 / Roethlisberger 676 2003-PRF-323</p>
	<p>パート4、No.6 1840年 エッチング、アクアチント 24.6×17.6cm、51.4×34.0cm (イメージ外)左下: No6. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 細く高い木と牛を従える牛飼 Oo.7.170 Hind 173 / Roethlisberger 968 2003-PRF-319</p>		<p>パート4、No.11 1840年 エッチング、アクアチント 25.1×18.4cm、51.1×34.2cm (イメージ外)左下: No11. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 木々 Oo.6.109 Hind 160 / Roethlisberger 300 2003-PRF-324</p>

	<p>パート4、No.12 1840年 エッチング、アクアチント 31.7×21.1cm、50.7×50.7cm (イメージ中)左下: Claudio fecit (イメージ外)左下: Claude No12. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 岩と木 Oo.7.218 Hind 68 / Roethlisberger 407 2003-PRF-325</p>		<p>パート4、No.17 1840年 船頭のある川の風景</p>
	<p>パート4、No.13 1840年 エッチング、アクアチント 40.1×26.3cm、51.1×34.2cm (イメージ中)左下: Claude/ 右下: F.C.Lewis (イメージ外)左下: No13. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 宮殿の庭の木々 Oo.7.182 Hind 155 / Roethlisberger 886 2003-PRF-326</p>		<p>パート4、No.18 1840年 エッチング、アクアチント、 ドライポイント 24.9×34.0cm、34.2×50.7cm (イメージ外)左下: No18. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 水辺の岩と木々の風景 Oo.7.194 ※版画と反転 Hind 61 / Roethlisberger 88 2003-PRF-327</p>
	<p>パート4、No.14 1840年 チェチャーラ・メッテラの寺院</p>		<p>パート4、No.19 1840年 エッチング、アクアチント 25.5×37.6cm、34.2×50.4cm (イメージ外)左下: No19. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 滝のある風景 Oo.6.98 ※以前はロラン作とされていたが、今はギヤスパー・デュゲ作とされている Roethlisberger 1216 2003-PRF-328</p>
	<p>パート4、No.15 1840年 農民と山羊のいる農家の風景</p>		<p>パート4、No.20 1840年 エッチング、アクアチント 25.5×36.7cm、34.4×51.3cm (イメージ外)左下: No20. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 木にもたれかかる男性のいる風景 Oo.7.145 (verso) Hind 7 / Roethlisberger 912 2003-PRF-329</p>
	<p>パート4、No.16 1840年 木の幹の近くに座る農民のいる森の風景</p>		<p>パート4、No.21 1840年 エッチング、アクアチント 19.6×30.2cm、34.1×50.5cm (イメージ外)左下: No21. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 大きな魚を抱えるトビトと天使 Oo.6.134 Hind 288 / Roethlisberger 914 2003-PRF-330</p>






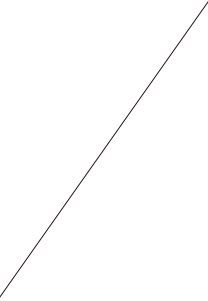


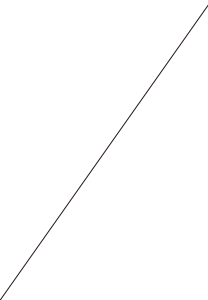


	<p>パート4、No.22 1840年 エッチング、アクアチント 21.9×31.4cm、34.1×50.8cm (イメージ中)左下: Claudio (イメージ外)左下: No22. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 農民と牧夫、山羊のいる風景 Oo.6.53 Hind 276 / Roethlisberger 325 2003-PRF-331</p>		<p>パート4、No.27 1840年 エッチング、アクアチント 23.2×32.2cm 34.3×51.0cm (イメージ外)左下: No27. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 森のある風景 Oo.7.217 Hind 83 / Roethlisberger 284 2003-PRF-335</p>
	<p>パート4、No.23 1840年 エッチング、アクアチント 21.8×22.3cm、34.3×51.0cm (イメージ中)左下: Claude/ 右下: F.C.Lewis (イメージ外)左下: No23. PART 4th/ 右下: F.C.Lewis St 邸宅が見える川岸の風景 Oo.7.165 Hind 65 / Roethlisberger 510 2003-PRF-332</p>		<p>パート4、No.28 1840年 エッチング、アクアチント、 ドライポイント 25.8×40.3cm、34.0×51.0cm (イメージ外)左下: No28. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 1840 2人の人物がいる風景 Oo.7.207 Hind 154 / Roethlisberger 704 2003-PRF-336</p>
	<p>パート4、No.24 1840年 エッチング、アクアチント 22.0×30.7cm、34.3×51.0cm (イメージ外)左下: No24. PART 4th/ 中央下: Claude F□t/ 右下: F.C.Lewis St 大きな木のある風景 Oo.7.216 Hind 90 / Roethlisberger 537 2003-PRF-333</p>		<p>パート4、No.29 1840年 遠くに小高い海岸がある海景</p>
	<p>パート4、No.25 1840年 エッチング、アクアチント 21.2×31.2cm、34.3×50.8cm (イメージ外)左下: No25. PART 4th ティボリのシピラの神殿のテラスから の風景 Oo.6.80 Hind 8 / Roethlisberger 429 2003-PRF-334</p>		
	<p>パート4、No.26 1840年 古代ローマの廃墟の内部</p>		

表2：所在が確認された『ミュージアム・クロード』と関連づけられるロランの複製版画集一覧

凡例：本表は、執筆者が調査の結果、横浜美術館所蔵の『ミュージアム・クロード』と関連づけられる版画集を所蔵している美術館、図書館をまとめた。オンラインデータベースに掲載されている情報のみを記載した。

所蔵先	タイトル	出版者	出版年	技法	形態	寸法 (cm)	内訳・点数	備考
ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ (Royal Academy of Arts, London)	Imitations of Claude Lorraine, By F.C. Lewis, Engraved From The Drawings In The British Museum' Dedicated, By Permission, To His Majesty.	London: Engraved & Published By F.C. Lewis, Engraver To The King, 53, Charlotte Street, Portland Place.	1837	—	—	550 ※フォリオ縦寸と思われる	・表紙 ・風刺版画20点 References to the Plates ・Subscribers to the Work	・全てのプレートにクロードが描いたことを示すサインと、ルイスが刻んだことを示すサインがある ・表紙には、ロランの家を象徴する神殿のような建造物が描かれている ・ジョン・フレデリック・ルイスより寄贈
ゲッティ研究所 (Getty Research Institute, Los Angeles)	Liber studiorum of Claude Lorraine, by F.C.Lewis, engraved from the drawings in the British Museum; dedicated, by permission, to His Grace the Duke of Devonshire (Imitations of Claude Lorraine)	London: Engraved & published by F.C. Lewis, engraver To The Queen, 53 Charlotte Street, Portland Place.	1837/1840	エッチング、 アケアチント	・4パートが3つにまとめられている ・パート1は縦じらされている ・パート2から4まではルースリーフ	570 ※フォリオ縦寸と思われる	・パート1 (20点) ・パート2 (No.4,20を除く19点) ・パート3 (28点) ・パート4 (30点) ※表紙を含めるかは不明 計97点	・パート1の表紙には「Imitations of Claude Lorraine, by F.C.Lewis, engraved from the drawings in the British Museum, dedicated. By permission to His Majesty, London, 1837, engraved & published by F.C.Lewis engraver to the King, 53, Charlotte Street, Portland Place.」
デ・ヤング、リージョ ン・オブ・オナー、サ ンフランシスコ美術館 (de Young, Legion of Honor, Fine Arts Museums of San Francisco, San Francisco)	Imitations of Claude Lorraine, by F.C.Lewis, engraved from the Drawings in the British Museum' Dedicated, by Permission, to His Majesty. ※個々のプレートについては、この版画集を「First Part of Liber Studiorum of Claude Lorraine」と表記	パート1： London: Engraved & Published By F.C. Lewis, Engraver To The King, 53, Charlotte Street, Portland Place. パート2： London: Engraved & Published by F.C. Lewis, Engraver To The Queen, 53 Charlotte Street, Portland Place.	パート1:1837 パート2:1840	エッチング、 アケアチント	—	紙のサイズは不明、イメージのサイズは作品によって異なる	・パート1 (表紙, No.1-20, 計21点) ・パート2 (表紙, No.1-20, 計21点) ・Reference to the Plates, of Part 2 of the Museum Claudes. ・Subscribers to the Work 計44点	
アルベルティナー 版画素描館 (Graphische Sammlung Albertina, Wien) ※付属図書館所蔵	Imitations of Claude Lorraine by F. C. Lewis, Engraved from the drawings in the British Museum'	London, F.C. Lewis	1837	—	—	—	—	
—	Liber studiorum of Claude Lorraine, engraved from the drawings in the British Museum	London: F.C.Lewis	1837-40	—	・4パートが3つにまとめられている ・パート1は縦じらされている ・パート2から4まではルースリーフ ・パート2はカーズリーフ ・パート1のポートフォリオにまとめられている	550×385 (broadsheet 2')	・全体の表紙 ・パートごとの表紙4点 ・風景版画93点 (パート2のNo.4&20を除く) ・Life of Claude ・Subscriber List ・Plate List for 3 and 4 計101点	・2009年6月3日にロンドンで開催されたクリスティーズのオークション (Sale 7725, Lot253) で売却 ・このシリーズは30年以上オークションにかけられていない ・全作品が揃ったセットの所蔵はほとんどない

Research Notes on Frederick Christian Lewis' *Museum Claudes*

KANAI Mayuko

Among the prints by Western artists in the Kojima Usui Collection acquired by the Yokohama Museum of Art in 2003 are Part 3 and Part 4 of English painter and engraver Frederick Christian Lewis' *Museum Claudes* series. These are reproductions of works by French painter Claude Lorrain. This essay aims to clarify basic information concerning this print series.

The Yokohama Museum of Art now holds a total of 44 *Museum Claudes* plates, with twenty (including the cover) from Part 3, twenty-three (including the cover) from Part 4, and a typed list, thought to have been added later by a third party, of the contents of Part 3 and Part 4. Inscribed in the lower margin of the copper plate etchings, aquatints, and dry point works is a notation of series part number and plate number, and indication of being a rendition of an original by Lorrain. There is also a signature that seems to indicate Lewis as the engraver. Investigation revealed that the complete set consisted of 100 plates, that Lewis took charge of printing and publishing, and that the prints were based on quickly executed sketches.

This research found four instances of Frederick Christian Lewis' series based on Lorrain's work related to *Museum Claudes* in collections, and one on auction. Although these are all incomplete sets, it was possible to confirm that they were from *Liber Studiorum of Claude Lorrain* published by Lewis as a series of 100 plates based on drawings by Lorrain in the British Museum, and that Part 1 of the series was published in 1937 with the title *Imitations of Claude Lorrain*.

Next, a review of advertisements from the time of the first publication of *Liber Studiorum of Claude Lorrain* revealed that the original Lorrain drawings once belonging to Richard Paye Knight's collection had been bequeathed to the British Museum in 1824. It was found that the forty-three Lewis prints now housed in the Yokohama Museum of Art are also works based on those drawings. Considering the resemblance of the date of publication, the composition consistency, and the fact that *Liber Studiorum of Claude Lorrain* is known as Lewis' sole print series based on Lorrain's drawings belonging to the British Museum, this essay concluded that it was highly likely that Lewis' *Museum Claudes* were *Liber Studiorum of Claude Lorrain* part 3 and 4.

Lewis made prints of drawings in the Royal Art Collection, including works by Lorrain, and also committed himself to creating a print of Joseph Mallord William Turner's *Liber Studiorum*, itself inspired by Lorrain's *Liber Veritatis* sketchbook. It is safe to say that Lewis' undertaking the printmaking and publication of *Liber Studiorum of Claude Lorrain* represented the culmination of his work as an engraver.